



平成30年5月10日

各 位

会 社 名 アルメタックス株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 社長執行役員  
小原 肇  
(コード番号 5928 東証第2部)  
問 合 せ 先 取締役常務執行役員管理部長  
清家 由和  
T E L 06-6440-3838

## 中期経営計画に関するお知らせ

当社は、平成30年3月期決算の業績を踏まえ、このたび平成31年3月期から平成33年3月期までの中期経営計画を下記のとおり策定しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 当社をとりまく事業環境

我が国の住宅着工戸数は年々減少傾向にあり、その中で、当社の主たる事業分野であるプレハブ住宅は全体の14～15%を占めています。今後プレハブ化率が上がれば、当社の受注量についても増加の余地はありますが、当面は現状のまま推移するものと推測されます。

住宅性能に関しては、省エネや防犯・防火の性能向上が求められており、住宅建材についても、これらの要求を満たした製品作りが要求されています。また、住宅の構造の進化により大開口の窓が採用される傾向にあります。

リフォーム、リノベーション事業に関しては、今後更なる成長が期待されます。

#### 2. 経営方針

##### (1) 営業戦略

当社コア製品であるプレハブ住宅向け建材の販売を堅持するなかで、さらに高性能の窓や大開口の窓を開発し、1棟当りの売上金額を増加させることで、住宅着工戸数減少の影響を補ってまいります。さらに、新規取引先の獲得、新規製品の受注に努めるとともに、当社オリジナルの高付加価値製品の開発も進めてまいります。

リフォーム分野では、現在、窓の交換がその大半を占めていますが、材料と工事を合わせて当社が受注している強みを生かし、新たな商材獲得に努めます。

##### (2) 製造戦略

少子高齢化が進むなか労働人口は減少しており、さらに長時間労働の抑制もあり、労働力不足は深刻な状況になると予想されます。これに対応するため、昨年秋、約3億円を投資し、関東工場に従来の6割の人員で生産できる省人化生産ラインを導入いたしました。この経験をもとに、さらなる省人化により業務の効率化を進め、製造原価の低減を図ります。中期経営計画の期間において7億円程度の投資を検討しております。

### (3) 情報処理戦略

情報処理の効率化を目的として、PLMシステム（プロダクト ライフサイクル マネジメント システム）の導入を決定いたしました。このシステムは、製品の企画から製造・保守・廃棄までのライフサイクル全般にわたる情報の一元化を図るものです。現在、このソフトの実用化に向けた作業を進めており、これが完成すれば、間接部門の省人化に加え、生産性の向上、品質の向上に結び付けることが可能となります。

### (4) 財務戦略

現在、当社は借入金等の有利子負債はなく、安定的な現預金を保有しております。本中期経営計画期間では、有利子負債を生じさせることなく、上述した設備投資や新製品開発等に積極的な投資を行ってまいります。

## 3. 中期事業計画

売上金額は平成31年3月期には減少しますが、平成32年3月期、平成33年3月期には新規受注、新規開発製品を含め年間2億5千万円（約2.1%）の増加を計画いたしました。

収益面では、昨年および今後の投資による減価償却費の増加および設備導入に伴う諸経費の増加により、投資効果が現れるまでの期間、収益面での大きな増加は見込めませんが、3年目の平成33年3月期には営業利益率5%達成を目指してまいります。今後とも、将来を見据え積極的な経営を行ってまいります。

なお、株主の皆様への配当は、今後とも安定配当を基本とし、さらなる収益の分配ができるよう目指してまいります。

単位 百万円

	平成30年 3月期実績	平成31年 3月期計画	平成32年 3月期計画	平成33年 3月期計画
売上高	11,779	11,500	11,750	12,000
営業利益	285	215	425	600
営業利益率	2.4%	1.9%	3.6%	5.0%
経常利益	381	305	515	690
経常利益率	3.2%	2.7%	4.4%	5.8%

本中期経営計画のうち、将来予測等に関する情報は、当社の判断や見通しに基づいたものであり、それらの正確性を保証するものではありません。経営環境の変化等により、予想数値等が変動する可能性があることにご留意ください。

以上